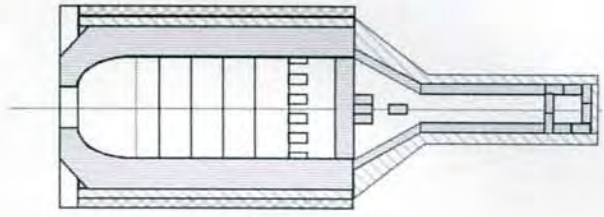
陶芸の里「穴窯づくり」支援

【相手先企業】
（財）グリーンふるさと振興機構

【目的】
「グリーンふるさと振興機構」では、同機構の新中期計画に位置付けられたグリーンふるさと圏の人材育成事業として、ボランティアによる「陶芸の里づくりプロジェクト」を立ち上げた。当所はまず里の核となる穴窯づくり技術を支援した。

【内容】穴窯の設計では以下の点を考慮
①一度に４０人分の作品が入る大きさ
→内容積４立米
②素人でも焼きやすく、耐久性のある窯
→勾配のある半地下式。
③廃材、バター材、雑木、松薪で１３００℃まで上げられる →広い燃焼室
④酸化、還元、燻化の雰囲気焼成ができる構造。→ロストル、狭間穴、ダンパー、煙突の工夫
⑤低燃費焼成 →耐火煉瓦＋断熱煉瓦により炉体放熱を抑えた構造。
⑥低予算 →２級品煉瓦や廃棄炉材の利用



平面図

完成した穴窯

【成果】
「陶芸の里」づくりには陶芸好きの市民など４０人のボランティアが集まった。活動は９月からの土日。予算は総額１００万円。予算から築炉用炉材はとても新品は買えず２級品、中古、廃棄煉瓦を集める。
集めた材料に合わせ設計変更もたびたび。 窯本体は１２月で完成。年度内に初窯の予定なので、煙突の完成を待たずに窯の乾燥目的のあぶりに入る。２月には初窯の火入れを行い、一般市民や圏内の地域づくりプランナー自らで焼成した作品が出来上がり、新しいスタイルの「陶芸の里」が始動する。
基礎となった事業：試験研究指導事業
技術支援及び技術相談